

図書館だより

第22号

八千代市立大和田図書館 482-3240

八千代台図書館 482-0912

勝田台図書館 484-4946

緑が丘図書館 489-4946

ホームページ <http://www.library.yachiyo.chiba.jp>

宅配サービスを始めました



図書館に来館することが難しい方々に、ご自宅まで職員が本をお届けするサービスです。八千代市にお住まいで、身体障害者手帳1～3級（視覚障害の場合は1～4級）をお持ちの方に、ご利用いただけます。

誰にでも役に立つ図書館を目指している八千代市の図書館では、宅配サービスを開始し、障害ある方にも図書館を利用して、知識・生活の場を広げていただけたらと思っております。市内にある4つの図書館（大和田・八千代台・勝田台・緑が丘図書館）が連携し、各図書館から職員が皆様のお宅へお届けし、回収もいたします。

サービスを利用するには登録が必要ですので、お近くの図書館にお問い合わせください。市内で所蔵している図書、雑誌、大活字本、CD、ビデオ、DVDのほかに、県内や全国の図書館から録音図書、点字図書、DAISY（デイジー）など取り寄せてご用意いたします。

平成16年度に開館した緑が丘図書館では館内は点字ブロックになっており、障害者用トイレや車椅子も用意しており、拡大読書器、再生機器プレクストークなどもあります。

* DAISY (デイジー) って？

視覚障害者の方のために生まれたデジタル録音図書の国際標準です。聞きたい箇所をページや見出しで検索でき、ほとんど全ての本がCD 1枚におさまります。PLEXTALK（プレクストーク）と呼ばれるデジタル図書専用の録音・再生機を使ってご利用になれます。

※なお、病気やケガで一時的に図書館においでになるのが困難な方は、このサービスの対象とはなりません。

桜 さくら サクラ



桜の季節を迎えました。人生の節目を彩る花として日本人にはなじみのある“桜”は目で見て楽しみ、香りに酔い、葉や散った花びらも活用できる数少ない花です。

桜

バラ科の落葉高木で、野生種は100種ほど、園芸品種を含めると国内では300種以上もの桜があります。

古名は「コノハナ（木の花）」と言います。語源については、古事記に登場する木花開耶姫（コノハナサクヤヒメ）の“サクヤ”から、麗らかに咲くという意味の“咲麗（サキウラ）”からなど数説あり定説はありません。民俗学的には、サは穀物の霊を表す古語、クラは神霊が依り集まる座を表していると考えられています。

お花見の歴史

桜は古来、花の咲く時期から稲を植える時期を知り、花の散り具合から米の出来具合を占うなどと暦代わりに、神様の宿る木として信じられ使われてきました。満開に咲いた桜を見上げて豊作を祈ったことがお花見の起源ともいわれています。



平安時代になると、嵯峨天皇が桜の下で歌会や舞の宴を催し、それが、風流を好む貴族の間で定着していきました。紫式部の『源氏物語』で光源氏と朧月夜の君との恋が描かれる「花宴」の章で当時の様子を伺い知ることができます。

鎌倉時代には貴族から武士の間へと広まると同時に、財力のある町人の一部は自宅に桜を植え鑑賞するようになり、また、仏世界の永遠性を象徴する花として各地の寺社でも桜会が催されるようになりました。

桃山時代には、豊臣秀吉が盛大なお花見を吉野山や醍醐寺で催したことから一般庶民にまで娯楽として広がっていきました。

江戸時代になると、町人や商人が中心となった活気にあふれる時代背景も重なり皆が楽しめる宴として大衆化され、満開の桜の下で、豪華なお花見弁当を食べながらお酒を酌み交わすという現在のお花見スタイルが確立されました。

桜についてもっと知りたい方には

『さくら百花事典』—あなたも桜博士になれる— 桜をいろいろな角度から眺めて1冊にまとめた本です。

『桜は一年じゅう日本のどこかで咲いている』—桜とともに四季を歩く旅— 全国の知られざる桜が紹介されています。

『桜信仰と日本人』—愛でる心をたどる名所・名木紀行— 桜と日本人の関係について様々な面から考察しています。

文学の中の桜

『闇桜』 樋口一葉最初の小説。散っていく桜に、はかない女性の命を重ね合わせた作品です。

『細雪』 谷崎潤一郎 花見に出かけた平安神宮の絢爛に咲く枝垂桜の美しさが物語に花を添えています。

『桜守』 水上勉 桜の移植に執念をもやした男の心境が描かれています。

『淡墨の桜』 宇野千代 岐阜県根尾谷の神代桜にまつわる妖艶な話です。

『桜の文学史』 小川和佑 古事記の時代から桜がどのように扱われてきたか、各時代を追って描かれています。

桜をもっと楽しむなら

味わう 桜の葉を使った‘桜餅’、おめでたい席を飾る‘桜湯’は有名ですが、最近では、和菓子のみならず、桜の花を使ったケーキ・クッキーまで数多く作られています。ほのかな淡い色合いと香りをいただければ。

八千代市の桜の名所としては

- 新川堤
- 八千代総合運動公園
- 村上緑地公園 千葉県桜の名所70選に選ばれました。

この春はどこでお花見を楽しみますか？
艶やかな枝垂桜、樹齢数百年を越す巨木、
川沿いに続く桜並木、自分だけのとおき
の“桜”を探しに出かけてみませんか？



図書館からのお知らせ



市内の各図書館では、毎週水曜日3時40分から4時10分まで、幼児から小学生を対象とした‘おはなし会’を開いています。おはなしの語り、絵本の読み聞かせ、本の紹介等を行っています。お一人でも多くの方々にご参加いただけるようお待ちしております。

《文学散歩を行いました。》

3月22日（木）八千代台図書館主催の文学散歩が行われました。今年は、「源頼朝ゆかりの千葉氏の歴史を学ぶ」をテーマに千葉市立郷土博物館へ行きました。郷土博物館を見学したあとプラネタリウムで星空の探索をし、稲毛海浜公園を経て浅間神社というコースで参加者の方々に楽しみいただきました。

石井桃子さん 100歳おめでとう



1907年、埼玉県浦和生まれで、今年の3月10日に満100歳を迎えられました。

「ノンちゃん雲に乗る」「三月ひなのつき」などの創作に、「ちいさなうさこちゃん」「クマのプーさん」「ピーターラビットのおはなし」などのシリーズの翻訳、また、「岩波少年文庫」などの編集者として、子どもたちに200点以上の作品を世に送り出してきました。そのどの作品も、長い間多くの家庭や図書館・文庫・学校・保育園・幼稚園で、たくさん子どもたちに読みつがれ、語られ、愛されています。また、自宅での「かつら文庫」の活動の記録が、日本全国に子ども文庫が誕生するきっかけをつくりました。

☆第136回 芥川賞が決まりました。

青山七恵さん 「ひとり日和」

*第136回直木賞は
該当作無しでした。

★★★★★あんな話題こんな話題★★★★★

“格差社会”という言葉が氾濫しています。生活・仕事・学校とあらゆる場で格差を感じる社会、現状を知ることから、これからの対処法が見つかるのではないのでしょうか。

- 『格差社会—何が問題なのか—』 橘木俊 岩波書店
- 『論争格差社会』 文芸春秋
- 『希望格差社会』 山田昌弘 筑摩書房
- 『ニッポン、ほんとに格差社会?』 池上彰 小学館

・・・編集後記・・・

先日、伊勢神宮に参拝してまいりました。2025年の遷宮の準備が平成17年から進められており、伝統の重みがひしひしと感じられました。深閑で厳かな空気に触れ魂が洗われたようです。 M

図書館だより 第22号

*編集 八千代台図書館
八千代市八千代台北6-7-6
TEL047-482-0912
*発行日 平成19年3月